

2 学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくりの実際

「おいしくなあれ！ 私たちの野菜」（第2学年）

（1）育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【単元で育成したい「思考力」】

アサガオやチューリップを育てた経験と結び付けながら、自分が育てている野菜への関わり方についてのよさや課題を捉える力

育てている野菜およびその栽培に興味をもち、世話をする中で気付いた野菜の生長の様子と自分が行ってきた世話について友達と話したことを生かし、収穫を楽しみにして世話を続けている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本単元では、子どもたちは幼稚園の友達と一緒に野菜パーティーを開くという目的意識をもって、育てたい野菜を決定し、栽培活動を行った。子どもたちの多くは、野菜パーティーのためだけでなく、家族とも一緒に食べたいという思いをもっていたため、幼稚園の友達と一緒に育てる野菜を1種類決め、それとは別に自分が育てたい野菜も1種類決めて栽培を始めた。その後の栽培活動において、子どもたちは、1年生の時に育てたアサガオやチューリップの世話のしかたを思い出して、「アサガオやチューリップの時と同じように、毎日、声をかけながら水やりをするといいよ。」「毎日世話を続けているから、元気に大きく育ってきているよ。」「アサガオの時みたいに大きくなってきたから、そろそろ支柱を立てないといけないよ。」等と自分が育ててきた花との関わり方を振り返りながら、野菜の世話のしかたを考えていった。

子どもたちは、キュウリやミニトマト、トウモロコシ等、それぞれの興味や嗜好に応じて野菜を選んでおり、「友達が育てている野菜はどんな様子だろう。」や「幼稚園の友達と野菜パーティーを開くために、どの野菜も元気に育っているかな。」等と、関心をもちながら世話を続けていた。そして、友達と互いの野菜の生長の様子と世話のしかたについて話し合い、「大きく育ってきたから、支柱を立てよう。」や「元気がなさそうだから、肥料をやった方がいいかもしれないね。」のように、必要な世話に気付き、生長や収穫を楽しみにしながら世話を続けていった。

（2）子どもの意識の流れを大切にした単元構成について

学習意欲に関わる子どもたちの実態（35名）	学習意欲を育てる単元構成の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察から課題を捉えても、世話のしかたが分かっていないと、課題解決ができず、子どもたちの「すぐにどうにかしたい。」という思いが叶いにくかった。 質問紙調査より、野菜の世話のしかたに関する知識は「水やりと声かけ」以外は不十分であるということが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 苗の植えつけ後に、選択した野菜の栽培活動について、教科書や本等で調べる時間を、位置づけ、野菜の状態に応じてすぐに必要な世話ができるようにした。
<ul style="list-style-type: none"> 質問紙調査より、多くの子どもが、さまざまな種類の野菜を育てたいと思っていることが分かった。 友達が育てている他の野菜にも興味をもっていた。 Q-Uの結果から、子どもたちのほとんどは学校生活を意欲的に送っていることが分かっており、友達どうして協力しようという気持ちが高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の野菜の健康観察を行う際には、同じ野菜を育てている友達や違う野菜を育てている友達と一緒に観察しながら生長の様子を見比べ、世話のしかたを共に考える時間を位置づけた。

(3) 子どもの意識の流れと学習意欲への働きかけ (総時数 18時間)

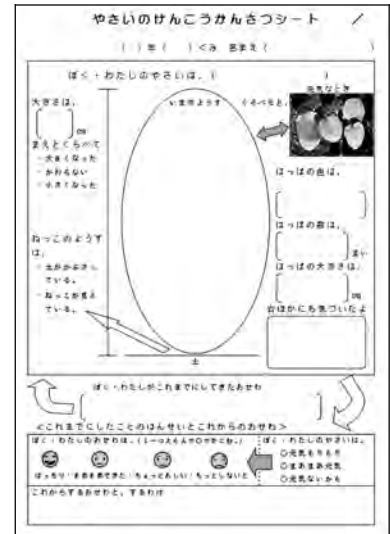
次	主な子どもの意識	学習意欲への働きかけ
第一 次	<p>①</p> <p>自分が育てる野菜を決めよう</p> <p>家族と一緒に食べる野菜を育てるよ。どれも育てたいから迷うな。</p> <p>自分が育てたい野菜は決まったよ。青組の友達は何を育てたいのかな。</p> <p>②</p> <p>幼稚園の友達と相談して、一緒に育てる野菜を決めよう</p> <p>一緒に育てる野菜が決まったよ。野菜パーティーが楽しみだな。</p>	<p>①② 野菜パーティーに向けて育てる野菜は、幼稚園の友達と一緒に育てるものと自分で育てるものを1種類ずつ合計2種類とすることで、子どもの多様な興味・関心に応じ、栽培活動への意欲をもたせた【目的の明確化：関目的指向性】。</p>
第二 次	<p>③</p> <p>幼稚園の友達と野菜を植えよう</p> <p>④⑤</p> <p>野菜を元気に育てるための世話のしかたを考えよう</p> <p>水やりを 肥料をやる 虫がついてたら、 支柱を立てたり、 わき芽をするよ。 といいいよ。 のけるよ。 とったりするのかな。</p> <p>1年生の時みたいに、毎日世話をするよ。 本で調べると分かるね。</p> <p>野菜が元気に育つように必要な世話のしかたを考え、世話していこう。</p> <p>⑥⑦</p> <p>野菜の健康観察をしよう</p> <p>茎は短くて、葉っぱも小さいけど 元気だね。もっと大きくなるように、世話をしないとイケないね。</p> <p>⑧⑨ 本時(8/18)</p> <p>大きくなってきた野菜の健康観察をしよう</p> <p>友達の野菜より小さい野菜にアリの集まっていたけど、もうすぐ花が咲きそういけれど、前よりは集まっていたけど、 なつぼみがあったよ。</p> <p>大きくなっているよ。大丈夫かな。 どんな花が咲くのかな。</p> <p>大きくなる速さはそれぞれ違うけど、自分の野菜も友達の野菜も前よりは大きくなっているね。</p> <p>野菜がもっと大きくなるように、肥料をあげようかな。 大きくなってきたから、支柱を立てたいはどんな様子で、どんな世話をするのかな。</p>	<p>④⑤ アサガオの生長過程と世話を流れ図で示し、これまでに行った世話を振り返らせることで、野菜の世話のしかたについて見通しをもたせた【経験の想起：関親しみやすさ】。</p> <p>⑦⑧⑨⑩⑪⑫ 葉の色や大きさ等の野菜の様子を見て、健康状態を「健康観察シート」に記録できるようにした。また、野菜の様子と世話を矢印でつなぎ、これまでの世話のしかたを振り返って、今後の世話のしかたへの見通しをもつことができるようにした【健康観察シート：自個人的なコントロール】。</p>
第三 次	<p>⑩</p> <p>友達が育てている野菜の様子を見てみよう</p> <p>種類は違って、必要な世話のしかたは大体同じだね。</p> <p>⑪～⑬</p> <p>健康観察を基に野菜の世話をしよう</p> <p>元気に育つように、支柱を立てたり、わき芽をとったりしたよ。</p> <p>⑭⑮</p> <p>野菜パーティーの準備をしよう</p> <p>⑯⑰</p> <p>青組さんと野菜パーティーをしよう</p> <p>⑱</p> <p>野菜の勉強を振り返って、まとめをしよう</p>	<p>⑧ 同じ野菜を育てている子どもどうして、一緒に野菜の健康状態を確認させるとともに、今後の世話のしかたについて話し合わせることで、世話を続けていく意欲を高めた【対話の設定：関動機との一致】。</p>
第三 次	<p>⑭⑮</p> <p>野菜パーティーの準備をしよう</p> <p>⑯⑰</p> <p>青組さんと野菜パーティーをしよう</p> <p>⑱</p> <p>野菜の勉強を振り返って、まとめをしよう</p>	<p>— 評価規準 (第2次) —</p> <p>野菜の生長と、野菜の栽培経験とを結び付けながら、野菜への関わり方についてのよさや課題を捉えている。</p>

(4) 学習意欲を育てる働きかけと子どもの姿

① 課題の解決 → 新たな問題を見だし、表出する (8時間目)

子どもたちは、前時までに、1年生の時に経験した、アサガオやチューリップの栽培を振り返ったり【**経験の想起：関親しみやすさ**】、それぞれの野菜の世話のしかたについて本で調べたりし、自分たちが育てている野菜についてどんな世話をすればよいかを捉えていた。また、前時には右図のような野菜の健康観察シートを用いて、苗の植え付けから1週間後の野菜の健康観察を行った。その時には、まだ生長が進んでおらず、世話として水やり、声かけが必要だということを共通理解して学習を終えた。

本時の導入では、1週間前の健康観察を思い出し、野菜の生長について気になっていることを発表し合うことから学習課題を設定した。健康観察を始める前に「野菜の何をみますか。」と尋ねると、葉の大きさや色、数と、根に土がしっかりかかっているか、虫が来ていないか等が表出された。それらの視点を確認した後、健康観察シートを用いて、観察を開始した【**健康観察シート：自個人的なコントロール**】。その際、観察の進み具合に合わせて、同じ野菜を育てているグループで世話について話し合うよう助言した【**対話の設定：関動機との一致**】。



【健康観察シート】

子どもの姿

- C1: C2さん、オクラはまだまだやなあ。
C2: うん。
C1: 前より少し伸びたような気がする。(定規で茎の長さを測る。)
C2: C1さん、定規貸して。
C1: まだ10cmくらいだな。やっぱり、前と同じかあ。
C1: 葉っぱの色は緑や。大きくなったら、支柱を立てないといけないね。
C1: 先生、雑草を抜いてもいいですか。
T: はい。
C1: 結構生えてるよ。(雑草を抜く。)
C1: (支柱を立てている友達を見ながら、) うーん、僕も支柱を立てたいな。
C3: でも、まだあんまり大きくなってないよ。
C1: 早くから支柱を立てておいたら、後から困らないよ。



C1の子どもは周りの野菜と比べながら、自分の野菜の大きさ、葉っぱの色、土や害虫等といった周りの様子の順で健康観察を行い、「雑草を抜きたい。」「今後の生長を見越して支柱を立てたい。」等の次に必要な世話を見いだした。その際、これまでに行った植物に対する世話の経験を思い出しながら、自分の野菜に対する世話のしかたを考えていったと思われる。上記のように、野菜の健康状態や生長具合を確かめるといって課題を解決すると同時に、今後必要になる世話という新たな問題を見いだしたのである。

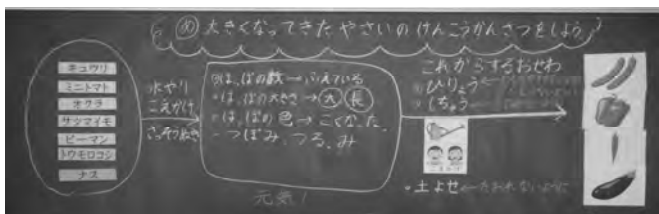
健康観察後は教室に戻り、気付いた生長の様子から、これから行う世話を全体で確かめていった。

子どもの姿 (対話場面)

- T: どこから野菜が元気だと思ったのですか。
C4: 葉の数が増えていました。
C5: それと、葉の大きさです。大きくなっていました。
C6: 前より葉っぱの色が濃くなっていました。
C7: 葉っぱの間からつぼみやつるが伸びていました。
C8: 水やりをちゃんとしていたからです。



T：C8さんは、何をしたら元気になったかを発表したんですね。頑張ったことはまだありますか。
 C9：声かけです。
 C1：今している世話は、雑草抜きです。
 C10：これからする世話は、つるが大きくなったら支柱を立てます。
 C11：風が吹いたときに、実の重さで倒れないように、支柱を立てます。
 T：支柱以外にもありますか。
 C12：私たちもお腹がすいているとご飯を食べないといけないので、野菜には肥料をあげます。
 C8：(つぶやき) 確かにそうかも。
 C1：肥料は茎に近づけ過ぎると、枯れてしまふと思います。
 T：効き過ぎてしまうということですね。あげる量も大切ですね。



全体で野菜の生長を確かめた後、今後、必要となる世話を発表し合うことで、これから考えていくことややっていくことを共通理解することができた。

② 課題の設定 → 課題を解決する（8，9時間目）

数名の子どもたちは、野菜の健康観察を行って気付いたことから、今後行う世話のしかたにはどのようなものがあるかという新たな問題を見だし、その場で世話をし、問題を解決していった。例えば、ミニトマトが大きく生長していることに気付いた子どもは、支柱が必要だと考えた。そこで、教師は支柱を準備し、その子どもが支柱を立てられるように支援した。それに続いて、数名の子どもも「支柱を出してください。」と教師のところに取りに来て、支柱を立て始めた。また、C1のように何人かの子どもは、野菜だけでなく周りに生えている雑草が生長していることに気付いて、進んで草抜きを行っていた。



【健康観察結果を基に世話をする】

次時の9時間目には、今の野菜に必要な世話は何かという課題を設定し、生長具合に応じて支柱を立てたり、土の湿り具合や雑草の生え具合を見て水やりや草抜き等の世話したりした。さらに、前時に扱わなかった自分たちが育てているもう1種類の野菜の健康観察も行い、必要な世話を考えて実践した。

(5) 考察

野菜の栽培活動は、活動の初期には子どもたちの意欲が高いが、日常の世話を継続するとなると徐々に意欲が低下してくることが多い。しかし、本実践では幼稚園の友達と野菜パーティーを開くという大きな目標が設定されていたことと、野菜に必要な世話のしかたをあらかじめ学習し、知識として身につけていたことで、野菜の生長に合わせてどのような世話があるかを考えることができた。それにより、継続して野菜に関わる姿が見られ、単元を通して意欲が育っていったと考えられる。

また、健康観察シートを用いることで、野菜の健康状態や生長具合について気付き、今後の世話を主体的に考えられるようになった。それは、例えば、自分の行った世話が野菜の生長につながっていることに気付いて、「大きく生長したから次は支柱を立てよう。」のように次に必要となる世話について自ら考えたりできたということである。そして、毎日世話を続ける中で、疑問に思ったことや世話のしかたについて家族に教えてもらったことを実践したり、野菜の収穫が近いこと等をうれしそうに報告したりする子どもの姿から、「思考力」が育成され、学習意欲が育ったことが見取れた。

一方、野菜パーティーのためにどの野菜も元気に育ててほしいという意識はありつつも、自分の野菜を世話したいという思いが強いあまり、友達と一緒に野菜の様子を見て世話のしかたを考える活動には向かいにくかった。今後、より適切な場面で協働ができるように働きかけを工夫することが課題である。